



L コマンド

この章では、L で始まる Cisco Nexus Virtual Services Appliance コマンドについて説明します。

line console

コンソール コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。コンソール コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line console

no line console

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソール コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# line console
n1010(config-console)#
```

line vty

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line vty

no line vty

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ライン コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# line vty
n1010(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
line console	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

構文の説明

severity-level ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。
重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注) レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソールセッションで重大度 4 (警告) 以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging console 4
n1010(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。イベントのログをディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

no logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

構文の説明	
link-status	すべてのアップ/ダウンおよびステータス変更のメッセージをログします。
trunk-status	すべてのトランク ステータス メッセージをログします。
default	デフォルトのログ コンフィギュレーションが使用されます。
enable	インターフェイス ログがイネーブルになり、ポート レベルのログ コンフィギュレーションは無視されます。

デフォルト なし

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザー ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging event link-status default
n1010(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging console	コンソール セッションへのメッセージのログをイネーブルにします。
	logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログをイネーブルにします。
	logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
	logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのログを開始します。
	logging server	システム メッセージをログするためのリモート サーバを指定して設定します。
	logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
	show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging level

定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。メッセージのログギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level facility severity-level

no logging level facility severity-level

構文の説明

<i>facility</i>	ファシリティの名前を指定します。
<i>severity-level</i>	ログギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がログギングされます。 重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level all level_number**

メッセージのロギングが可能なファシリティを一覧表示するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level ?**

例

次に、AAA ファシリティからのメッセージのうち重大度レベルが 0 ~ 2 のもののロギングをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging level aaa 2
n1010(config)#
```

次に、ライセンス ファシリティからの重大度が 0 ~ 4 のメッセージのロギングをイネーブルにし、ライセンス ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging level license 4
n1010(config)# show logging level license
Facility           Default Severity      Current Session Severity
-----
licmgr              6                      4

0(emergencies)     1(alerts)             2(critical)
3(errors)          4(warnings)           5(notifications)
6(information)     7(debugging)
```

n1010(config)#

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile *logfile-name severity-level [size bytes]*

no logging logfile [*logfile-name severity-level [size bytes]*]

構文の説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを保存するログ ファイルの名前を指定します。																											
<i>severity-level</i>	ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。 重大度は次のとおりです。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>名称</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊急</td> <td>システムが使用不可</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アラート</td> <td>即時処理が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クリティカル</td> <td>クリティカルな状態：デフォルト レベル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エラー</td> <td>エラー状態</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>警告</td> <td>警告状態</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>注意</td> <td>正常だが注意を要する状態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報</td> <td>単なる情報メッセージ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デバッグ</td> <td>デバッグ中にだけ表示される状態</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	名称	定義	0	緊急	システムが使用不可	1	アラート	即時処理が必要	2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル	3	エラー	エラー状態	4	警告	警告状態	5	注意	正常だが注意を要する状態	6	情報	単なる情報メッセージ	7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態
レベル	名称	定義																										
0	緊急	システムが使用不可																										
1	アラート	即時処理が必要																										
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル																										
3	エラー	エラー状態																										
4	警告	警告状態																										
5	注意	正常だが注意を要する状態																										
6	情報	単なる情報メッセージ																										
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態																										
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で、4096 ~ 10485760 の範囲で指定します。デフォルトのファイルサイズは 10485760 バイトです。																											



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、LogFile という名前のログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。


```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging logfile LogFile 4
n1010(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソールセッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging module	ログファイルへのモジュールメッセージのロギングを開始します。
logging server	システムメッセージをロギングするためのリモートサーバを指定して設定します。
logging timestamp	システムメッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
show logging logfile	ログファイルの内容を表示します。

logging module

ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始するには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module [*severity-level*]

構文の説明

severity-level ログイングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルが指定されていない場合は、デフォルトが使用されます。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態 (デフォルト)
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

ディセーブル

モジュール メッセージのロギングを開始する場合に、重大度を指定しないと、デフォルトの「注意」(5) が使用されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルトの重大度レベル (重大度 4) でモジュール メッセージのログ ファイルへのロギングを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
```

```
n1010(config)# logging module
n1010(config)#
```

次に、モジュール メッセージのログファイルへのロギングを停止する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# no logging module
n1010#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging server

システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定するには、**logging server** コマンドを使用します。設定を削除または変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

```
no logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

構文の説明

<i>hostname</i>	リモート Syslog サーバのホスト名/IPv4/IPv6 アドレスです。
<i>indicator</i>	(任意) 0 : 緊急、1 : アラート、2 : クリティカル、3 : エラー、4 : 警告、5 : 注意、6 : 情報、7 : デバッグ
use-vrf <i>name</i>	(任意) VRF 名を指定します。デフォルトは management です。
facility	(任意) このサーバへの転送時に使用するファシリティを指定します。
auth	auth ファシリティを指定します。
authpriv	authpriv ファシリティを指定します。
cron	Cron/at ファシリティを指定します。
daemon	デーモン ファシリティを指定します。
ftp	ファイル転送システム ファシリティを指定します。
kernel	カーネル ファシリティを指定します。
local0	local0 ファシリティを指定します。
local1	local1 ファシリティを指定します。
local2	local2 ファシリティを指定します。
local3	local3 ファシリティを指定します。
local4	local4 ファシリティを指定します。
local5	local5 ファシリティを指定します。
local6	local6 ファシリティを指定します。
local7	local7 ファシリティを指定します。
lpr	lpr ファシリティを指定します。
mail	メール ファシリティを指定します。
news	USENET ニュース ファシリティを指定します。
syslog	Syslog ファシリティを指定します。
user	ユーザ ファシリティを指定します。
uucp	UNIX-to-UNIX コピー システム ファシリティを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging server 172.28.254.253
n1010(config)#
```

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging server syslogA 5
n1010(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソール セッションへのメッセージのログギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをログギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのログギングを開始します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

logging timestamp

システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトの単位に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

構文の説明

microseconds	タイムスタンプはマイクロ秒単位です。
milliseconds	タイムスタンプはミリ秒単位です。
seconds	タイムスタンプは秒単位です (デフォルト)。

デフォルト

Seconds

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム メッセージのタイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging timestamp microseconds
n1010(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。

login virtual-service-blade

Virtual Service Blade (VSB) にログインするには、**login virtual-service-blade** コマンドを使用します。

login virtual-service-blade *name* [**primary** | **secondary**]

構文の説明

<i>name</i>	既存の仮想サービス ブレードの名前を指定します。
primary	(任意) プライマリ ロールを割り当てられている Cisco Nexus 1010。
secondary	(任意) セカンダリ ロールを割り当てられている Cisco Nexus 1010。

デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SP1(2)	オプションの primary および secondary キーワードが追加されました。
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、仮想サービス ブレードへのシリアル コマンド アクセスを可能にします。

例

次に、プライマリ Cisco Nexus 1010 上にある VSB-1 という名前の VSB の Cisco Nexus 1000V CLI にログインする例を示します。

```
n1010# login virtual-service-blade VSB-1 primary
n1010#
```

関連コマンド

コマンド	説明
description	仮想サービスに説明を追加します。
enable	仮想サービスのコンフィギュレーションを開始してイネーブルにします。
show virtual-service-blade	仮想サービス ブレードに関する情報を表示します。
show virtual-service-blade name	仮想サービスに関する情報を表示します。
show virtual-service-blade-type summary	すべての仮想サービスの設定の要約をタイプ名ごとに表示します。

コマンド	説明
virtual-service-blade	指定した仮想サービスを作成して、そのサービスのコンフィギュレーションモードに切り替えます。
virtual-service-blade-type	この仮想サービスに追加するソフトウェア イメージ ファイルのタイプと名前を指定します。